



気になるあいつ
わかぎゑふ

双葉社

そっくりさん？

2月にうちの劇団の中堅・若手を中心にした公演があった。一日だけだったが、なかなか盛況で、好評のうちに幕を閉じた。

「大阪芝居」というタイトルで、私は脚本とスタッフを担当した。公演の企画が持ち上がった時に、なんせ大阪芝居という芝居を書きたい！と思った。内容はまったく決まっていなかったが、ともかく大阪芝居。なんか大阪な芝居をやりたいかったのだ。

その後、演出の朝深大介から「駅の話にしてほしい」とリクエストがあった。内容は決めてないが、ともかく駅。駅で起こる話にしたいと彼

は言った。

ともかく大阪と、ともかく駅が結合して「じゃあ、大阪のとある駅に勤務する、駅員の話にしましょう」ということになった。

で、大阪らしい駅ということ、大阪城が見える「大阪城公園駅」に勤務を始めたばかりの新鉄道マンの話にした。その駅に降りてくる大阪人。そこに住む大阪人。大阪を見に来た地方人：駅員がちよっぴり大阪チックな恋をしたりもする物語ができあがった。

大阪弁オンリーという喜劇である。やってる方も楽しそうだったが、見てる方が楽しかった。脚本にはない設定だったが、幕があくといきなり山口百恵のそっくりさんが出てきて、勝手に駅で歌つてるといふ設定の芝居だった。その人は早朝に駅のマイクで「いい日旅立ち」を勝手に歌う謎のお姉さんなのである。

危ない人だが、やけに歌が上手い上に、衣裳まで着込んできて本格的

なので、駅員が聞き込んでしまうというオープニングだ。これが大阪らしいのかどうかは別として、お客は大爆笑だった。演出のつかみOKというやつである。

写真はそのオープニングの幕の中で山口百恵になりきろうとして、最後の稽古をしているうちの千田訓子という女優だ。確かに似ている…稽古中はそうでもなかったが、メイクをして髪をセットし、衣裳を着ると段々怖いくらい似てきて、いざ、舞台上がると物まね選手権のチャンピオンみたいだった。

イメージとは怖いものである。昔のアイドルがいかにスタイリッシュだったか、いかに印象的な衣裳や、メイクで自分の名前を背負っていたかが忍ばれる。しかし…うちの劇団にこんな女優が居たなんて…再発見の舞台だった。

【著者略歴】

わかぎさるふ

1959年、大阪府生まれ。女優、エッセイスト。1986年より故中島らも氏とともに劇団「リリパット・アーミー」を主宰し、現在同劇団の進化形「リリパット・アーミーⅡ」の座長。1994年より演劇ユニット「ラックシステム」を旗揚げ。演劇制作会社「玉造小劇団」を運営し、女優のみならず、脚本、演出、メイクから衣装まで芝居全般にわたりその才能を発揮し続けるスーパーレディ。主な著書に『すみっこのすみっこ』『女体の神秘』『秘密の花園』『ぬくい女』『イブの抜け穴』『大阪弁の詰め合わせ』など多数。
